

# JAPIC NEWS

# 9

2011 | No.329

財団法人 日本医薬情報センター **JAPIC**  
Japan Pharmaceutical Information Center



【メダイチドリ】  
Mongolian Plover

全長19～21cm。ユーラシア大陸中央部から東北部にかけて繁殖する。冬季は東アフリカからインド、東南アジア、ニューギニア島に渡って越冬する。日本でも旅鳥として、海岸や河川などの砂泥地に生息する。羽色は褐色と白色をしており、夏になると前頭、首、胸にかけて華やかな橙色を帯びる。オスは目の周りが黒く、メスはオスよりも橙色が薄い。「クリリ、クリリ」などとさえずる。

## Contents

■巻頭言	
「健康長寿を実現するために」 静岡県立大学薬学部 医薬生命化学 教授 奥 直人	2
■インフォメーション	
医薬品集9月に同時2種発刊!!	
☆「JAPIC医療用医薬品集2012」検索性CD-ROM付	4
★「JAPIC一般用医薬品集2012」	4
「JAPIC医療用医薬品集2012」更新情報メールサービス(無料)申込み開始!	4
重篤副作用疾患別対応マニュアル	
◆第5集・総合索引付 発行!!	5
◆iPad版リリース!!(第1集～第5集)	5
JAPIC J No.17 発行しました	5
■トピックス	
JAPICサービスの紹介	
医薬品類似名称検索	6
■海外で承認された医薬品(16)	8
■コラム	
最近の話題「動物病院で使われている医薬品—イヌやネコも死因の1位は「がん」—」	
麻布大学獣医薬理学研究室 教授 浅井 史敏	10
会員の声「まるで酸素のような存在」 科研製薬株式会社 医薬情報部 出水 梨沙	12
くすりの散歩道 No.49「食べ合わせの今昔」	
(財)日本医薬情報センター 医薬文献情報担当 山口 澄恵	13
外国政府等の医薬品・医療機器等の安全性に関する規制措置情報より(抜粋)	14
■図書館だよりNo.255 ■情報提供一覧	15

## 健康長寿を実現するために

静岡県立大学薬学部 医薬生命化学  
教授 奥直人 (Oku Naoto)



昨今、健康志向は、「健康ブーム」という言葉も死語となるほど定着し、サプリメントや保健機能食品が多く出回っている。今や「健康」は国民の最大の関心事と言ってもよい。若い人には分からないかもしれないが、小さい字が見えなくなり、モノの名前が直ぐに出てこなくなり「あれ」を連発するようになると、歳を実感する。ついつい若いつもりで夜中まで仕事をする、次の日は仕事にならない。学生との飲み会もほどほどにしないとついつも翌日には後悔する。若いころのようにとはいかなくても、いつまでも元気でいたいというのは誰しもが願うことである。これらが老化現象と言うことであれば、その次に来る恐ろしいことは、世の中の移り変わりに対処できない自分に直面することかもしれない。そういえば若いころなら率先して購入していただろうスマートフォンに、未だに切り替えられていない。頑張らないと思う。

ところで、我が国は第二次大戦後、国民一人一人の地道な努力により驚くべき経済発展を成し遂げた。一方で、我が国は先進国の魁としていち早く超高齢社会に突入した。ここでも国民一人一人が現在置かれている日本の状況をきちんと把握し、医療保険も、年金も国を当てに出来なくなりつつある「恐れ」のなかで、自分にできることを、地道に勤め上げていることは素晴らしいことと思う。健康ブームをみると、長寿を自らの喜びとして、なんとか最後まで幸せな人生を送れるように必死で立ち向かう日本国民の姿が伺える。それは丁度、東日本大震災で被災地の人々が冷静に助け合い、この危難に立ち向かって勇氣と忍耐を世界に示しつづけているのと同じかもしれな

い。ちなみにこの大震災により、日本薬学会130余年の歴史で、第二次大戦でも途切れることのなかった薬学会年会の開催を中止した。

静岡で開催を予定していた年会では、テーマとして「健康長寿を実現する「創」「療」融合薬学の新展開」を掲げた。この度、JAPICの巻頭言を書く機会を与えて頂いたので、「健康長寿の実現」への思いを述べさせて頂くことにする。

前段の繰り返しになるが、我が国は2007年以降、高齢化率（65歳以上の高齢者人口の総人口に占める割合）が21%を超え、超高齢社会に突入した。2010年には、高齢化率は23.1%となり、団塊の世代が65歳以上になる2015年には30%を超えると予想されている。世界中で超高齢社会を体験しているのは我が国だけなので、日本国民がこの社会を切り盛りする方法論を開発せざるを得ない。またこの方法論が開発できれば次世代の知財となるのみならず、それらを世界各国、とりわけ先進諸国に産業として提供することにより日本経済にとっても好都合となる。「健康長寿日本一」を目指す静岡県では、1996年から毎年、「静岡健康・長寿学術フォーラム」を開催してきた。小生は約半数のフォーラムで組織委員として企画運営を行ってきた。1998年には「がんへの挑戦」というテーマで、寛仁親王殿下にご講演を賜ったこともあり、3,500人を超える聴衆を集めた。健康長寿にはやはり市民の関心が高いと痛切に感じた。

さて、歳をとれば必然的にいろいろな機能が低下する。また多くの場合、いろいろな病気を抱えるようになる。その中で医薬品は非常に重要な位置を占めている。若いうちは病気を抱えることなく、薬に頼らず生きるということが健康であることと広く認識されていると思う。しかしながら高齢者では健康の捉え方が違ってよいと考えている。病院に通い薬を飲みながらも普通の生活が送れること、これは高齢者にとって健康と言ってよい。例えば老若を問わず近視の人は多い。普段は眼鏡をかけたりコンタクトレンズをはめたりしている。それにより生活上に支障がないので、健康を害しているとは誰も言わない。もう一つの例として学生に話すときに使うのは、日本人に多いアルデヒド脱水素酵素の機能喪失についてである。この酵素活性が欠損している人たちはアルコールがほとんど飲めない。しかしこれらの人を病人とは言わない。お酒を飲まなければ生活上で全く支障がないからである。同様に、ある機能が低下しているときに薬により機能が補えれば、それで良いと考えている。上手く薬を使ってQOLを保ちながら高齢者が人生を全うできるようにするには、そのような薬の開発に携わる製薬企業に課せられた使命はとても大きいと感じている。また種々の病気を抱えた場合に、それを上手くコントロールしていくためには、薬剤師の力が非常に重要である。「健康長寿を実現する」ためには「薬」は欠かせないものと考えている。機能低下を抑制したり、進行を遅らせる薬、例えばひん尿の患者の排尿回数を減らす薬など、これらは治療薬ともいえるが、QOL改善薬と考えた方がしっくりする。血圧を下げる薬、中性脂質を下げる薬は服用者も多い。これらも治療薬というより、現実的には、メタボリック症候群の中で循環器系疾患のリスクを下げる予防薬としての要素が強いと感じている。すなわち薬物療法ではあるが、大きな括りとしては予防医学の範疇に入ると考えている。そう考えるに至ったのは以下の2つのプログラムが大きく関与する。

静岡県立大学では、薬学研究科と、食品栄養科学を主体とする生活健康科学研究科とが連携して、21世紀COEプログラム「先導的健康長寿学術研究推進拠点」、グローバルCOEプログラム「健康長寿科学教育研究の戦略的新展開」を展開してきた。本年度は10年間の最終年度となる。この中で「薬食同源」を旗印に、医薬品と食品の相互作用、食品の機能性研究、機能性を付与した

食品の開発研究などを行い多くの成果を上げてきた。このプログラムでは博士課程の学生が、本拠点独自のプログラムによって、海外において科学英語コミュニケーション能力を磨くなど、他にも多くの成果を上げてきたが、両プログラムの成果を宣伝することは本筋から離れるので、ここでは健康長寿科学に焦点を当てて述べる。この「健康長寿科学」という学問体系については、薬学と食品栄養科学という異なる分野（はじめのころは異なる人種と言った方が良かったかもしれないと思ってた）間で議論を重ね、創り上げてきた。先に述べたように高齢者では種々の生理機能の低下が起こりうる。健康な長寿を全うするために、個人によって異なる代謝機能の低下に合わせ、栄養（食事）に加え、必要に応じてQOL改善薬や予防薬（ここでは敢えてこう言わせて頂く）を適切に使用することになる。「薬」に対してはレギュラトリーサイエンスの基、厳格なデータの蓄積により薬効、その他の機能、安全性についてある程度の担保がなされている。食品あるいはその中に含まれる成分、さらに医薬品と食品との相互作用についても、薬学と同じ様な手法で評価し、薬食の両者を通じてヒトの健康に貢献していく予防医学的学問体系が健康長寿科学と捉える事ができる。機能を有する食品に関しては、場合によっては「薬」に適用されるようなレギュラトリーサイエンスが必要となると考えている。

一方、大学人である以上、人材育成は最も重要な使命である。薬学と共に組まれるプログラムである健康長寿科学の大学院教育を通じて、薬と栄養を理解し、特に高齢者の健康維持に直接貢献できる薬剤師や管理栄養士、あるいは両分野を俯瞰できる力を持った研究者の育成を今後も推進していきたいと考えている。超高齢社会の先駆者としての我が国の健康長寿科学が、世界のスタンダードとして発展することを願っており、その一翼を担えれば幸いである。

## 医薬品集9月に同時2種発刊!!

### ☆「JAPIC医療用医薬品集2012」検索用CD-ROM付

#### ◆6月の後発品収載、7月の新薬収載に対応◆

- ◇2011年7月新薬収載分まで網羅（約18,000製品）
- ◇有効成分（約2,100成分）ごとにまとめて掲載  
1,300成分について「構造式」も掲載
- ◇先発品（またはそれに準じるとされる医薬品）と後発品及び局方品が明確に区別できる
- ◇同一成分内での剤形の違い・製品の違いにより  
効能・効果、異なる場合はその違いを明記
- ◇検索用CD-ROM（非インストール版）付

《価格》13,650円（税込）（検索用CD-ROM付）



### ★「JAPIC一般用医薬品集2012」

#### ◆一般用医薬品の販売制度改正対応に◆

- ◇2011年7月までの約12,000製品を収録  
国内流通の一般用医薬品をほぼ全て網羅
- ◇最新の添付文書を日本製薬団体連合会の委託を受け収集
- ◇各製品の組成・効能効果・用法用量を掲載
- ◇リスク区分（第1類～第3類医薬品）をわかりやすく表記
- ◇付録：リスク区分一覧（成分）、ブランド名別成分比較表、国内副作用報告  
の状況、重篤副作用疾患別対応マニュアル（一部）を収録

《価格》9,450円（税込）



《お問い合わせ先》事務局 業務・渉外担当（TEL：0120-181-276）

## 「JAPIC医療用医薬品集2012」更新情報メールサービス（無料） 申込み開始!

- ◇「JAPIC医療用医薬品集2012」をご利用のユーザー様を対象に、収録内容の更新情報を無料でご提供するサービス。
- ◇新薬・その他重要な改訂（効能効果・用法用量・禁忌・重大な副作用等）等の追加情報のPDFをwebサイトで閲覧・ダウンロード可能。
- ◇配信期間は2011年9月～翌年5月予定。

#### 《ご利用方法》

登録フォーム（URL：<https://www.japic.or.jp/iryou2012.html>）より、必要事項を入力し、お申込みください。ご登録頂いたメールアドレスに、更新情報を公開しているwebサイトのURLを毎月送信いたします。

※お詫び：更新情報のご提供につきまして、2012年版より従来のシール形式（有料）は廃止し、本メールサービスの内容の充実・提供の迅速性に力を入れました。これまでシール形式をご購入頂いておりましたユーザー様にも、是非本メールサービスをご利用頂ければと存じます。

## 重篤副作用疾患別対応マニュアル

### ◆第5集・総合索引付 発行!!

重篤副作用疾患別対応マニュアルは厚生労働省の重篤副作用疾患総合対策事業として、作成され、厚生労働省、医薬品医療機器総合機構のホームページで公開されたマニュアルを纏めて冊子化したものです。今まで第1集から第4集まで出版して参りましたが、今回、平成23年4月に公表された12マニュアルを纏め、第5集として発刊いたしました。重篤副作用疾患別対応マニュアル作成事業はこの12マニュアルをもって完了となります。

今回は第1集から第5集までの総合索引(別冊)を作成し、第5集とともに提供いたします。総合索引には副作用名の部位別索引、五十音順索引に加え、医薬品名(成分名)索引も収録されています。日常の業務にご活用いただければ幸いです。

第5集収録の12マニュアルは以下のとおりです。

- ・角膜混濁・急性散在性脳脊髄炎・急性腎盂腎炎・出血性膀胱炎・腫瘍崩壊症候群
- ・小児の急性脳症・腎性尿崩症・低血糖・特発性大腿骨頭壊死症・無菌性髄膜炎
- ・薬物性味覚障害・卵巣過剰刺激症候群

■定価 1,680円(本体1,600円+税)、B5判 約240ページ

■JAPIC会員特価 1,512円(本体1,440円+税)

会員の皆様には業務担当者宛に1部無償でお送りしました。ご購入は事務局業務・渉外担当までお願いします。

(TEL:0120-181-276)



### ◆iPad版リリース!! (第1集~第5集)

重篤副作用疾患別対応マニュアルは医療機関ならびに薬局等からご好評いただいておりますが、この書籍をもとに電子化を行い、iPad用アプリケーションとしてリリース致します。

第1集から5集まで全体を通して、医薬品名、副作用名、副作用症状など様々な視点からの検索、特に患者さん向けの初期症状や画像からも検索できるなど、電子書籍ならではの機能も充実しており、大変使いやすいものとなっています。日常の業務にぜひご活用ください。

#### 《特長》

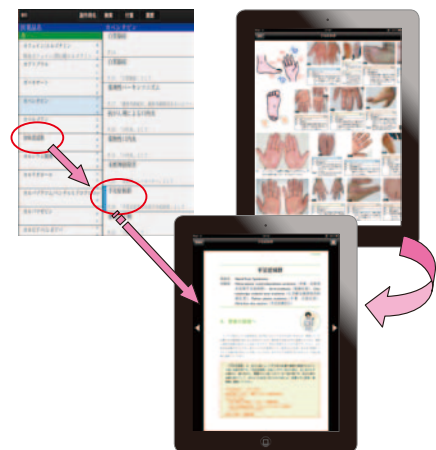
第1集~第5集までをまとめて搭載

書籍の見やすさをそのまま再現

充実したインデックス(医薬品名、副作用名、患者向け症状一覧、掲載画像一覧等)

アップルAPPストアからお買い求めください。

《予価》8,400円(税込)



## JAPIC J No.17 発行しました

7月末にJAPIC J No.17を発行しました。本書は今年度JAPICで開催しました講演会の中から4点をとりあげ掲載しております。会員の皆様にはすでにお送りしておりますが、ご希望の方には贈呈いたしますのでご連絡ください。

(TEL:0120-181-276)

《目次》 漢方の過去、現在、未来  
漢方の効能・効果と標準病名  
製薬企業と医薬品の安全対策  
薬剤イベントモニタリング  
JAPICサービスの紹介

「医薬品の安全性に関する情報提供」JAPIC-Qサービス(医薬文献・学会情報速報)

寺澤 捷年 (前:社団法人日本東洋医学会 会長)  
足立 秀樹 (前:社団法人日本東洋医学会 理事)  
高橋 千代美 (日本製薬団体連合会 常務理事)  
栗野 信子 (日本薬剤師会 常務理事)  
山内 美香、鈴木 克枝 (日本医薬情報センター)



# ❖ JAPICサービスの紹介 ❖

## ■ 医薬品類似名称検索

### 医薬品類似名称検索とは

「医薬品類似名称検索」とは医薬品名称の類似性により生じる製品取り違え防止の手段として医薬品名称の類似性を客観的に表示・評価するためのシステムで、2008年3月にリリースいたしました。承認された既存の医薬品名称相互の類似性を確認する**既存医薬品名称検索**と、新規名称を含む任意の医薬品名称相互の類似性を確認する**新規医薬品名称検索**のサービスがあります。いずれも医療用医薬品の名称（販売名）を検索対象としております。

### 既存医薬品名称検索【無料】

**既存医薬品名称検索**は承認された医薬品相互の類似性を客観的に評価するための指標数値を提供いたします。選択したひとつの既存医薬品名称とそれ以外の医薬品名称の類似性を検索する機能と、選択したふたつの既存医薬品名称相互の類似性を検索する機能があります。

例えば、医療関係者の方が院内採用薬の選定の際に、採用予定医薬品名と既存の採用薬の名称との類似性を確認する等の目的に利用することができます。

このサービスは無料で公開しておりますので、病院・薬局などの医療関係者を始め、広くどなたでもご利用いただくことができます。

URL : <https://www.ruijimeisho.jp/>

《検索画面》

### 新規医薬品名称検索【有料】※

**新規医薬品名称検索**は新規に承認申請される医療用医薬品の名称が既存の医療用医薬品と類似したものにならないよう、既存の医療用医薬品名称との類似性を確認する有料サービスです。また、得られた検索結果は、薬効分類名、会社名などの付加情報とリンクしています。

検索方法はお客様ご自身で直接お調べいただく直接検索と、JAPICがお客様に代わりお調べする代行検索の2種類があります。

※ご利用は、国内に日本法人をもつ組織で、原則、承認申請をされる製薬企業を対象としております。

#### 1) 直接検索

お客様ご自身で直接お調べいただく場合は、以下の要領でお申込み後、JAPICより有効期間を指定したパスワード\*を発行いたしますので、パスワード交付時にお送りするURLへアクセスしてご利用ください。

※パスワードは月曜日から金曜日までの5日間有効です。有効期間中は何回でもご利用いただくことができますが、ひとつのパスワードでアクセスすることができる方はお一人です。同じパスワードを使って複数台のパソコンから同時にアクセスすることはできませんので、ご注意ください。

《検索画面》

＜申込み方法＞ 「類似名称検索システム 新規医薬品名称検索申込フォーム」

URL : <https://www.ruijimeisho.jp/Registration.aspx>

こちらに会社名、部署名、氏名、メールアドレス、請求書送付先、ご利用期間等、必要事項をご記入のうえ、お申込みください。パスワード発行業務の都合上、ご利用予定の前週木曜日までのお申込みをお願いしておりますが、緊急のご利用の場合は、お問い合わせください。

＜利用料金＞ JAPIC会員 52,500円/1パスワード JAPIC非会員 105,000円/1パスワード

＜お問い合わせ＞ JAPIC事務局 業務・渉外担当 TEL:0120-181-276 FAX:0120-181-461

**2) 代行検索**

JAPICがお客様に代わりお調べする代行検索の場合は、以下の要領でお申込み後、JAPICにて検索を行います。通常3～4日（最長7日）で検索結果をカンマ区切りテキストデータで納品いたします。

ご依頼いただいた名称が展開可能な場合、展開した名称での検索結果についてもお送りします（展開とは、促音、拗音を大文字化、また、濁音、半濁音、清音化が可能であれば、それぞれの処理をした名称）。

また、代行検索では厚生労働省医薬食品局安全対策課より事務連絡で提供されております“新規医薬品名称回避フローチャート”の結果をお付けする付帯サービスも有料でご用意しております。

	A	B	C	D	E	F	G		A	B	C	D	E	F	G	H	
1	名称	edit	cos1	htco	clen	head	tail		1	名称	edit	cos1	htco	clen	head	tail	判定
2	シルテック	2	0.6	0.75	0	1	2		2	シルテック	2	0.6	0.75	0	1	2	変更不要
3	チャンピックス	3	0.68	0	2	0	0		3	チャンピックス	3	0.68	0	2	0	0	変更不要
4	ジクロニック	3	0.63	0.75	1	1	2		4	ジクロニック	3	0.63	0.75	1	1	2	変更不要
5	パビロック	3	0.6	0.5	0	0	2		5	パビロック	3	0.6	0.5	0	0	2	変更不要
6	ピナテック	3	0.6	0.5	0	0	2		6	ピナテック	3	0.6	0.5	0	0	2	変更不要
7	ピナロック	3	0.6	0.5	0	0	2		7	ピナロック	3	0.6	0.5	0	0	2	変更不要
8	ピロニック	3	0.6	0.5	0	0	2		8	ピロニック	3	0.6	0.5	0	0	2	変更不要
9	メジテック	3	0.6	0.5	0	0	2		9	メジテック	3	0.6	0.5	0	0	2	変更不要
10	メジヤピン	3	0.6	0	0	0	0		10	メジヤピン	3	0.6	0	0	0	0	変更不要
11	ジェニナック	3	0.55	0.75	1	1	2		11	ジェニナック	3	0.55	0.75	1	1	2	変更不要
12	ジスロマック	3	0.55	0.75	1	1	2		12	ジスロマック	3	0.55	0.75	1	1	2	変更不要
13	ジフェナック	3	0.55	0.75	1	1	2		13	ジフェナック	3	0.55	0.75	1	1	2	変更不要
14	ジベンザック	3	0.55	0.75	1	1	2		14	ジベンザック	3	0.55	0.75	1	1	2	変更不要
15	ジリオザック	3	0.55	0.75	1	1	2		15	ジリオザック	3	0.55	0.75	1	1	2	変更不要
16	シルダザック	3	0.55	0.75	1	1	2		16	シルダザック	3	0.55	0.75	1	1	2	変更不要
17	キヤルマック	3	0.55	0.5	1	0	2		17	キヤルマック	3	0.55	0.5	1	0	2	変更不要
18	プロトピック	3	0.55	0.5	1	0	3		18	プロトピック	3	0.55	0.5	1	0	3	変更不要
19	ジアバックス	3	0.55	0.25	1	1	0		19	ジアバックス	3	0.55	0.25	1	1	0	変更不要
20	ジメトックス	3	0.55	0.25	1	1	0		20	ジメトックス	3	0.55	0.25	1	1	0	変更不要
21	ベック	3	0.52	0.5	2	0	2		21	ベック	3	0.52	0.5	2	0	2	変更不要

☆ 通常の代行検索結果イメージ

☆ 付帯サービスあり代行検索結果イメージ

(イメージ図は、検索結果データをExcelで表示したものととなります。)

＜申込み方法＞

Email : [ruiji@japic.or.jp](mailto:ruiji@japic.or.jp)までお問い合わせください。代行検索申込書をメールでお送りいたします。必要事項をご記入の上、ご返信ください。

＜利用料金＞

・代行検索料金

JAPIC A会員	10,500円/件
JAPIC B・C会員	31,500円/件
JAPIC非会員	52,500円/件

・付帯サービス料金

JAPIC A会員	1,050円/件
JAPIC B・C会員	3,150円/件
JAPIC非会員	5,250円/件

＜お問い合わせ＞ JAPIC事業部門 添付文書情報担当 TEL:03-5466-1826 FAX:03-5466-1816

**お問い合わせ**

全般的なお問い合わせは、Email : [similar@japic.or.jp](mailto:similar@japic.or.jp)までお願いいたします。ただし、本システムでの検索結果や医薬品名称の類似性を評価する指標に関するお問い合わせには、回答することができませんので、あらかじめご了承ください。

また、よくあるご質問をFAQとしてまとめております。お問い合わせいただく前に、一度ご覧ください。

URL : <https://www.ruijimeisho.jp/Faq/Question1.aspx>

# 海外で承認された医薬品(16)

JAPICでは、医薬品の有効性・安全性・規制・承認に関する海外の情報を収集し、各種媒体で提供を行っております。本シリーズでは、海外で承認された医薬品のうち、米国、EUにおける新有効成分 (New Molecular Entity : NME) 医薬品を中心に随時紹介します。

## ◆EU：進行メラノーマの治療薬Yervoy (ipilimumab) 承認 承認日：2011年7月13日

EU・EMAは、Bristol-Myers SquibbのYervoy (ipilimumab) を承認した。治療歴のある成人の進行 (切除不能または転移性) メラノーマの治療に使用される。Yervoyの有効成分ipilimumabは抗CTLA-4 (細胞傷害性Tリンパ球抗原4) モノクローナル抗体である。製品は5mg/ml concentrate for solution for infusionで、推奨導入レジメンは3週間ごとに計4回、3mg/kgを90分かけて静注する。

Yervoyの有効性と安全性は、治療歴のある進行メラノーマ患者676例を対象とした二重盲検臨床試験 (MDX010-20) において、Yervoy 3mg/kg単独投与、gp100 (腫瘍ワクチン) 単独投与、またはYervoyとgp100併用により評価された。有効性の主要評価項目は全生存期間とした。Yervoyによる治療は全生存期間を改善することが示され、Yervoy単独、Yervoyとgp100併用による治療群は平均10ヵ月間生存したが、gp100単独群では平均6ヵ月であった。

Yervoyは過度の免疫系活性による副作用と関連し、重度の炎症性反応などが認められた。多くは適切な治療やYervoy投与中止により消失する。最も一般的な副作用は下痢、発疹、掻痒、疲労、悪心、嘔吐、食欲不振、腹痛、内分泌機能低下、大腸炎などであった。

Yervoyの製造業者は、本剤の安全な使用を確保するための措置として、医療提供者ならびに患者に対し、過度の免疫系活性に関連した副作用を含むYervoyに関する安全性情報の冊子を提供する必要がある。患者には

本剤に関する重要な安全性情報を要約したalert cardも医師から配布される。

(米国：2011年3月25日承認、国内：メラノーマ、胃癌：前臨床、非小細胞肺癌：Phase I)

## ◆米国：血液凝固阻止剤Xarelto (rivaroxavan) 承認 承認日：2011年7月1日

米国FDAは、Johnson&Johnsonの血液凝固阻止剤Xarelto (rivaroxavan) を承認した。股関節または膝関節置換術後の深部静脈血栓症 (DVT) および肺塞栓症 (PE) の予防に対する適応が承認された。Xareltoの有効成分rivaroxavanはfactor Xa阻害剤である。10mgの錠剤で、1日1回経口投与する。膝関節置換術を受ける患者には12日間、股関節置換術を受ける患者には35日間の投与が推奨される。

Xareltoの安全性と有効性は、股関節または膝関節置換術を実施する患者9,011例を対象とした3つの臨床試験 (RECORD 1, 2, 3) において、enoxaparinとの比較により評価された。股関節置換術実施患者における総静脈血栓塞栓症イベント (VTE) は、RECORD 1においてXarelto 10mg1日1回投与群で1.1%、enoxaparin 40mg 1日1回投与群で3.9%、RECORD 2においてそれぞれ2.0%、8.4%、膝関節置換術実施患者における総VTEは、RECORD 3においてそれぞれ9.7%、18.8%であり、Xareltoはenoxaparinと比較して優れた効果を示した。Xarelto投与患者に認められた最も一般的な副作用は出血であった。Xareltoの警告&使用上の注意には、出血





の危険性があり、重篤で致死的な出血を引き起こすおそれがあるとの記載がある。出血のリスク増加のある状況ではXareltoは慎重に使用すること。

Xareltoの非弁膜症性心房細動患者における脳卒中および全身性塞栓症の予防における適応の申請については、2011年9月8日に開催される米国FDAの心血管・腎臓用薬諮問委員会で討議される予定。

(EU:脳塞栓症:申請中、深部静脈血栓症:承認済、国内:脳梗塞、血栓塞栓症:申請中)

◆EU:免疫抑制剤Nulojix  
(belatacept) 承認  
承認日:2011年6月17日

EU・EMAは、Bristol-Myers SquibbのNulojix (belatacept) を承認した。腎移植を受けた成人患者における急性拒絶反応の予防に、basiliximab導入療法、mycophenolate mofetil, corticosteroidsとの併用が承認された。Nulojixの有効成分belataceptは変異CTLA4-IgとヒトIgG1Fcドメインの融合タンパクであり、免疫抑制作用を有する。製品は250mg powder for concentrate for solution for infusionで、30分かけて静注する。初期治療では、day 1 (移植当日または前日) に10mg/kgを投与し、その後day 5、14、28に10mg/kgを投与、week 8、12の終わりに10mg/kgを投与する。初期治療(3ヵ月)後、維持治療としてweek 16の終わりから4週間ごとの5mg/kg投与を開始する。

Nulojixの有効性と安全性は、腎移植を受けた1,209例の患者を対象に、2つの主要な無作為化多施設比較

試験において、cyclosporine Aとの比較により評価された。全例に、basiliximab、mycophenolate mofetil、corticosteroidsが移植後最初の1週間投与された。有効性の主要評価項目は、移植腎が損傷を受けていない生存患者の割合および移植された腎臓の機能とした。Nulojixは腎移植患者の生存率と移植臓器生着率を改善させた。1つ目の試験において、Nulojix投与群の97%が生出し移植腎も損傷を受けなかったが、cyclosporine A投与群では93%であった。Nulojix投与群の54%、cyclosporine A投与群の78%に腎機能障害が認められた。移植後1年以内に臓器拒絶反応が発現した患者の割合はNulojix投与群17%、cyclosporine A投与群7%であった。2つ目の試験でも類似の結果が得られた。Nulojixの強化治療(6ヵ月の初期治療)を受けた一部患者において3ヵ月の初期治療と類似した結果が得られた。

Nulojix投与患者に多くみられた重大な副作用は、尿路感染、CMV感染、発熱、血中クレアチニン上昇、腎盂腎炎、下痢、胃腸炎、移植腎の機能不良、白血球減少、肺炎、基底細胞癌、貧血、脱水症であった。EBウイルス暴露歴のない患者ではNulojix治療により移植後リンパ増殖性疾患のリスクが高いため、EBウイルス暴露歴のない患者または不明の患者には使用しないこと。

(米国:2011年6月15日承認、国内:開発なし)

出典:FDA News Release、Drugs@FDA、EU・EMA EPARなど

(医薬文献情報担当・海外)

# 最近の話題

## 動物病院で使われている医薬品 —イヌやネコも死因の1位は「がん」—

麻布大学獣医薬理学研究室 教授  
浅井 史敏 (Asai Fumitoshi)



獣医学科を卒業後、30年近く製薬企業研究所で創薬研究に携わり、3年ほど前に縁あって獣医系大学の教職に就きました。私の学生当時とは獣医環境も大きく様変わりしており、竜宮城から故郷に戻ってきた浦島太郎にも似た境遇です。本稿では動物病院で使われている医薬品について、いくつか話題をご紹介します。

### ■ペット・愛玩動物から伴侶動物へ

ペットブームと呼ばれて久しい今日、多くの方がさまざまなペットを飼っています。例えば、イヌは1,186万頭、ネコは961万頭が飼育されており（平成22年「犬猫飼育率全国調査」）、イヌとネコの総数はわが国の小児の人数に匹敵します。多くの飼い主にとって、ペットは生活や人生を豊かにしてくれる、かけがえのない可愛い家族の一員です。実際、かつての「ペット」あるいは「愛玩動物」の呼称は、最近では人生を共にする「伴侶動物・コンパニオンアニマル」に変わりつつあります。

伴侶動物もヒトと同様に一生を健康に過ごすことは極めてまれで、生涯のうちに何度か怪我をしたり、病気を患ったりすることがあります。このような場合、全国に7,000ほどある動物病院を訪れることになります。動物病院における治療の多くは、ヒト医療と同じように薬物治療です。以下に、最近の小動物医療においてすばらしい効果を示しているエポック的な医薬品の事例を3つ紹介いたします。

### ■事例1: 抗フィラリア薬

日本の夏を特徴付けるものの一つは「蚊」でした。夏には必ずといっていいほど、寝室に蚊帳をつり、屋内のあちこちに蚊取り線香を焚くのがあたりまえでしたが、それでも蚊に刺されてずいぶんと痒い思いをしたものです。一方、獣医療では蚊が媒介するフィラリア症が大きな問題でした。フィラリア症は犬の体内にマイクロフィラリア（フィラリアの幼虫）が入りこみ、成虫となったフィラリア（長さ15~30cm）が心臓や肺の動脈に住みつくと疾患で、「乾いた咳をする」「運動をいやがる」などの軽い症状から、腎臓や肝臓の働きまで影響が出ることで、より深刻な症状がみられるようになります。フィラリア症は蚊によって媒介されるため、蚊の出ってくる季節に感染が次々

と広がっていきます。私も愛犬の1頭（1歳に満たない若い柴犬）をフィラリア症で失ったつらい思い出を持っています。

しかし、この恐ろしいフィラリア症はイベルメクチン・ミルベマイシンオキシム・モキシデクチンなどのマイクロフィラリアを駆除する駆虫薬によって、現在では激減しました。これらの薬物をイヌが蚊にさされる可能性のある期間に1ヵ月に1回投与するだけで、フィラリア幼虫が皮膚や筋肉に溜まっても駆除することができます。獣医薬理学の講義でこれらの薬物について説明するたびに、できることなら自分の愛犬たちにも飲ませてやりたかったとの思いがこみあげてきます。

### ■事例2: 分子標的薬

21世紀の創薬研究開発で著しい成果を挙げているのが抗がん薬領域のいわゆる分子標的薬です。従来の抗がん薬と違い、分子標的薬はがん細胞の増殖に深く関係している分子を標的としています。イマチニブはシグナル増殖抑制薬型の分子標的薬の先鞭をつけた抗がん薬で、ヒト医療では慢性骨髄性白血病、フィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病、CD117陽性消化管間質腫瘍の特効薬とされています。

世界で最も長寿な日本人の死因の一位が「がん」であることはよく知られていますが、イヌやネコも長寿化が進み、これに伴って「がん」がイヌやネコの死因の1位を占めるようになってきました。イヌのがんの中でも、犬肥満細胞腫は発生率が高い（とくに高齢犬に多い）皮膚がんの一種で、切除だけでは再発・転移を繰り返す非常に厄介ながんです。最近の臨床研究から、犬肥満細胞腫とくに特定の遺伝子に変異の入っている場合に、イマチニブがすばらしい抗がん作用を示すことが明らかになっています。薬価の高いことが飼い主と獣医師の悩みの種ですが、

かつて不治の病といわれた「がん」が薬で治る時代が獣医療にも訪れたことを示しています。このように動物用医薬品だけでなく人用医薬品も動物の治療に用いられます。人用医薬品が獣医療で使用される理由は、動物用医薬品の市場規模が小さいことから、世界的にも動物用医薬品の種類や数が少ないためです。

### ■事例3：イヌの制吐薬

嘔吐にはさまざまな原因でおこる、きわめて不快な症状です。上述したようにイヌやネコなどの小動物も長寿化とともに「がん」に罹ることが多くなっています。がん治療に用いられる抗がん薬や放射線療法は、ヒトだけでなくイヌやネコなどの動物においても、しばしば嘔吐を誘発します。また、交通手段や社会環境の変化により伴侶動物とともに車や船で移動することが多くなりましたが、一般に、動物とくに幼弱な動物は、乗り物酔いによって嘔吐しやすいとされます。

ヒト医療ではグラニセトンやオンダンセトンなどのセロトニン受容体 (5-HT<sub>3</sub>) 拮抗薬やサブスタンスP受容体 (NK1) 拮抗薬であるアプレピタントが抗がん薬誘発嘔吐に対して汎用されています。しかし、これらの人用医薬品は、獣医療においても優れた薬効を示すのですが、薬価が非常に高いため、医療保険の普及していない獣医療では使用頻度は決して高くありません。

最近、わが国でも動物用の制吐薬として新規のNK1拮抗薬 (マロピタント) が上市されました。この薬は嘔吐中枢をはじめとする中枢や末梢のNK1受容体に拮抗することによって、イヌやネコの胃腸疾患・抗がん薬・乗り物酔いなどさまざまな原因による嘔吐に高い臨床効果を発揮する期待の新薬です。

### ■動物愛護と動物実験のジレンマ

獣医師を目指して入学してきた新入生にアンケートをとると、動物の命を救うために獣医師になろうとしているにもかかわらず、実習や研究では実験動物を殺さなくてはいけないという矛盾に悩みを抱えていることがわかります。製薬企業の研究所で長年、動物実験をしてきたこともあり、この悩みについて意見を求められることがあります。その際には、「実習や研究での動物実験を経験せずに、腕の立つ獣医師になることは不可能。実習や研究で提供してもらった動物の命の何百倍、何千倍の数の命を

救えるようしっかり勉学に励むべし。」と回答しています。

医薬品の開発には多くの実験動物が貢献しており、これは紛れもない事実です。しかし、一方で動物愛護の観点から、製薬会社における動物実験に反対し、撤廃を求める人が少なからずいることも周知の事実です。すでに動物実験の撤廃を表明した化粧品会社や食品会社があり、製薬会社も代替試験法の開発にたゆまぬ努力をしています。しかし、非常に残念なことですが、現在のサイエンスでは動物実験なしに医薬品を開発することはできません。動物実験の是非を論ずるだけでは現状を打開することはできないでしょう。

### ■私の夢

多くの実験動物の尊い命の代償として医薬品が誕生するわけですから、新薬から何らかの恩恵が動物に還元されて当然だといえます。本稿で紹介した医薬品はいずれも、たくさんの動物に大きな恩恵を与えています。しかし、動物において優れた薬効と安全性を示すにも関わらず、保険制度が米国の人医療保険制度に近い獣医療では、高薬価の医薬品はジェネリック化しないかぎり、飼育者が経済的に裕福でない限り使用することができません。そこで、提案1として、高薬価の医薬品についてはヒト医療より獣医療の薬価を下げるといえるのはいかがでしょうか。実現は簡単ではないでしょうが、動物愛護と製薬会社の動物実験の矛盾を緩和できると思います。

マロピタント (事例3) は、当初は鎮痛消炎を適応症とした人用医薬品を目指して開発されていました。鎮痛消炎薬としての臨床効果が期待したほどではないことから開発中止となったものの、研究開発の中で強いNK1拮抗作用を有することが判明し、動物用の制吐薬として改めて開発された経緯があります。医薬品の開発では、動物では十分な薬効と安全性を示すにも関わらず、人の臨床試験でドロップアウトする化合物は少なくありません。提案2は、このような化合物を臭いものに蓋をするごとくお蔵入りさせるのではなく、動物用医薬品として再開発するチャンスを与えることです。そうすれば、開発費用も抑えることができるとし、動物用医薬品の充実にも大きく貢献することが期待できると確信しています。

# 会員の声



## まるで酸素のような存在

科研製薬株式会社 医薬情報部

出水 梨沙 (Demizu Risa)

### 【科研製薬について】

財団法人理化学研究所をルーツとする内資系製薬会社で、主に医療用医薬品の製造販売を行っています。代表薬剤としては、関節機能改善薬のアルツや、創傷治癒促進剤のフィブラストスプレーがあります。また、近年は後発品の販売にも力を入れております。本社は文京区本駒込に所在し、周辺環境は丸の内や日本橋のようなビルが立ち並びいわゆるビジネス街とは異なり、緑が多い住宅街です。19階オフィスからは、他のビルに視界を遮られることなく、東京スカイツリー建設の進捗を見守ることができます。

### 【JAPICとの関わり】

私は入社時より2年半程、医薬情報部安全性情報グループに所属しております。安全性情報グループは、その名の通り、製造販売後医薬品の安全管理情報の収集・評価・措置を行う部署です。部署で利用している主なサービスは、JAPIC-Qサービスによる国内文献の取り寄せです。副作用、安全性、妊婦、授乳婦等のキーワードにより文献の絞り込みを行っております。また、JAPIC Daily Mailによる海外措置情報のチェックは毎日の日課になっております。国外安全性情報のチェックには、JAPIC Pharma Report速報FAXも大いに活用させていただいております。

更に個人的には、iyakuSearchのJAPIC Daily Mail DBによる過去の措置情報の検索や、医薬品情報ナビの海外添付文書情報の確認を利用する機会が多いです。

JAPICさんは医薬品の適正使用促進の仕事に携わる者にとって、必要不可欠なまるで酸素のような存在です。この場を借りてお礼を申し上げます。今後もより良いサービスに期待しております。

### 【私のプライベートについて】

私は自我が芽生えた時には、既に体を動かすことが苦

手で、休み時間は教室内で過ごすタイプでしたし、体育の時間が苦痛で仕方ありませんでした。一輪車に乗ることはもちろん、逆上がりが成功したこともありません。大学でも体育は選択せず、スポーツ系の華やかなサークルにも入らず、体を動かすことから可能な限り逃げてきました。しかし、お客様に健康を届ける製薬会社の社員である以上、健康を維持するために何かしなくては…という思いに駆られ、一年半ほど前からカルチャースクールでベリーダンスを習っております。

「ベリーダンス」と聞いてもピンとこない方もいらっしゃるかと思います。しかし、私の周りでは今やダンス系習い事の中で、フラダンスに次ぐ女性人気を誇っております。堂々と言えることではありませんが、私自身、数々の健康維持法の中からベリーダンスを選択したのは「ベリーダンスってアラビアンナイトっぽいイメージ？踊れたら、セクシーな大人の女性って感じがするし、憧れちゃう！」というミーハーな気持ちによるところが大きいので、ダンスについての背景や知識は持ち合わせておりません。ちなみに、Wikipediaによると、ベリーダンスは中東およびその他のアラブ文化圏で発展したダンス・スタイルを指す言葉で、女性の肉体の「丸さ」「ふくよかさ」を前面に押し出したスタイルを採るとのことです。「百聞は一見に如かず」ですので、ベリーダンサーが踊っているアラビアンレストラン等に是非一度足をお運びください。

レッスンは、2週間に1回という生温いペースなので、当初の目的である健康維持の肉体面へのプラス効果は誤差範囲だろうと思っております。(ちなみに、セクシーな大人の女性にもなれておりません。)しかし、同年代の素敵な女性のお友達が増えたことによる精神面へのプラス効果は大きいかもしれません。レッスン前後のガールズトークはアルコール無しでも十分盛り上がり、それは私にとって必要不可欠な酸素のような存在です。

# くすりの散歩道

NO.49

## 食べ合わせの今昔

(財)日本医薬情報センター 医薬文献情報担当  
山口 澄恵 (Yamaguchi Sumie)



この夏は、節電に加え梅雨明けが早く、長い夏に皆さんも夏バテしていらっしゃるのではないのでしょうか。元気を出すために、ウナギを食べようか、スイカもおいしそうと思っていたら、なんだか食べ合わせが気になってきました。

まず、歴史的に有名な江戸時代初期の『養生訓』をのぞいてみると、牛肉4種、兎肉6種、鹿肉4種、鶏肉と卵11種、その他にスッポン、すずめ肉にも「いけない」があります。さらに、時代を遡って、南北朝に書かれた『捨芥抄』にも、大豆と猪、麻子と六畜肉など60種のタブーがあって、むしろ、昔の食材の豊かさに驚きます。

広く知られているウナギと梅干、天ぷらとスイカ、蟹と柿などの食べ合わせは江戸時代中期以降に民間に広まったもので、中には蛸と蕨といった過剰摂取による中毒や、胡桃と酒ではのぼせやすくなるため、血圧上昇への喚起もありますが、多くは消化不良への注意です。鮎とごぼう、アサリと松茸など旬が大幅に離れているものや、おこわとフグ、筍と黒砂糖など贅沢をいさめる目的と思われるものなど科学的な根拠のないものがほとんどようです。

また、不老長寿について研究する学問の本草学では、合食禁といって陰陽五行思想を食材にあてはめていて、中国の『食経』、『飲膳正要』には食物相反の章に、牛肉と栗子の記述があります。

現代の食べ合わせは、ダイエットや健康志向の観点から、お茶と鉄分を含む食品、生の卵白(アビジン)とビオチンを含む食材、枝豆(フィチン酸)・ほうれん草(シュウ酸)とカルシウムを多く含む食材、玄米(フィチン酸)とこんにゃくなどのように吸収阻害を心配したものが多いですね。

暑いこの季節に、つい、やってしまいそうなのが、

スイカとビールです。スイカは、ほとんど水分ですが利尿作用もあり、水分を取っているつもりが脱水症状になって、ビールの摂取が進みすぎ急性アルコール中毒を引き起こす可能性があるため、避けたほうがいいとか。

怖いのは大根と焼き魚から、発がん物質のニトロソアミンが合成されるというものです。一時的に確かに合成されることもありますが、すぐに大根のビタミンCが亜硝酸を酸化窒素に変化・無害化するので、全く心配はないそうです。

一方、たらことソーセージ、ハムとジャム、ほうれん草とベーコンなどでも、体内で亜硝酸塩と二級アミンからニトロソアミンができてしまいます。合成添加物には亜硝酸塩の含まれているものが多く、発がん物質となれば、やはり怖いですね。

そして、「食べるな危険」というものもありました。メントスガイザーと呼ばれていて、ソフトキャンディのメントスに炭酸飲料(特にダイエットコークがすごいらしいですが)を入れると、急激に炭酸が気化して吹き出します。夏休みの宿題には面白いでしょうが、ユーチューブを見ると実際に口に入れて試している人もいてびっくりです。もちろん、口に入れた瞬間に吐き出していました。

ドリアンとアルコールも、東南アジアでは胃が破裂するといわれているそうです。一緒に食すと、急速に発酵が進み、少量なら膨満感や気分が悪くなる程度ですが、多量のドリアンを食べたときは吐いたり、寝込んだりしてしまうそうです。

暑さが胃腸が弱りがちなこの季節は、食べ合わせとして安全性が問題ですが、涼しくなる秋にはプラス志向の併用効果をテーマにしたいですね。

# 外国政府等の医薬品・医療機器等の 安全性に関する規制措置情報より – (抜粋)

2011年7月1日～7月29日分のJAPIC WEEKLY NEWS (No.310-314)の記事から抜粋

## ■米FDA

- Valproate製品：子宮内暴露（妊娠中に）した小児における認知力発達障害のリスクについて  
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm261610.htm>>
- Bisphosphonates：食道癌リスク増加の可能性について  
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm264087.htm>>
- Chantix (varenicline) の表示改訂：特定の心血管系有害事象リスクについて  
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm259469.htm>>
- Zyvox (linezolid)：セロトニン作動性精神病治療薬を服用している患者において重篤な中枢神経系反応の可能性  
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm265479.htm>>
- Methylene Blue：セロトニン作動性精神病治療薬を服用している患者において重篤な中枢神経系反応の可能性  
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm265476.htm>>
- RotaTeq (5価経口生口ウイルスワクチン) の表示改訂の承認：「腸重積症の既往歴」の禁忌への追加など  
<<http://www.fda.gov/BiologicsBloodVaccines/Vaccines/ApprovedProducts/ucm262599.htm>>

## ■Health Canada

- Valproate含有抗てんかん薬：母親が妊娠中に使用した場合、子供にリスクをもたらす可能性がある  
<[http://www.hc-sc.gc.ca/ahc-asc/media/advisories-avis/\\_2011/2011\\_90-eng.php](http://www.hc-sc.gc.ca/ahc-asc/media/advisories-avis/_2011/2011_90-eng.php)>
- Metoclopramide：異常な筋運動リスクに関する警告の強化  
<[http://www.hc-sc.gc.ca/ahc-asc/media/advisories-avis/\\_2011/2011\\_99-eng.php](http://www.hc-sc.gc.ca/ahc-asc/media/advisories-avis/_2011/2011_99-eng.php)>

## ■英MHRA

- 糖尿病治療薬pioglitazone (Actos、Competact) と膀胱癌リスクに関する新たなアドバイス  
<<http://www.mhra.gov.uk/Safetyinformation/Safetywarningsalertsandrecalls/Safetywarningsandmessagesformedicines/CON123285>>

## ■EU・EMA

- European Medicines Agency、膀胱癌のわずかなリスク増加を低減するためpioglitazoneの禁忌および警告を改訂するよう勧告  
<[http://www.ema.europa.eu/docs/en\\_GB/document\\_library/Press\\_release/2011/07/WC500109176.pdf](http://www.ema.europa.eu/docs/en_GB/document_library/Press_release/2011/07/WC500109176.pdf)>
- European Medicines Agency、Champix (varenicline) のリスク・ベネフィットのバランスはポジティブであることを確認  
<[http://www.ema.europa.eu/docs/en\\_GB/document\\_library/Press\\_release/2011/07/WC500109177.pdf](http://www.ema.europa.eu/docs/en_GB/document_library/Press_release/2011/07/WC500109177.pdf)>
- European Medicines Agency、Pandemrixの使用を制限するよう勧告  
<[http://www.ema.europa.eu/docs/en\\_GB/document\\_library/Press\\_release/2011/07/WC500109182.pdf](http://www.ema.europa.eu/docs/en_GB/document_library/Press_release/2011/07/WC500109182.pdf)>

## ■独BfArM

- 抗精神病薬：定型抗精神病薬による静脈血栓塞栓症リスクと認知症患者における死亡リスク上昇  
<<http://www.bfarm.de/DE/Pharmakovigilanz/stufenplanverf/Liste/stp-antipsychotika.html>>

## ■豪TGA

- Drospirenone含有の経口避妊薬 (YazおよびYasmin)：血栓（静脈血栓塞栓症）のリスクについて  
<<http://www.tga.gov.au/safety/alerts-medicine-oral-contraceptives-110706.htm>>
- Pioglitazoneと膀胱癌リスク  
<<http://www.tga.gov.au/safety/alerts-medicine-pioglitazone-110718.htm>>

JAPIC事業部門 医薬文献情報(海外)担当

記事詳細およびその他の記事については、JAPIC Daily Mail (有料) もしくはJAPIC WEEKLY NEWS (無料) のサービスをご利用ください (JAPICホームページのサービス紹介: <<http://www.japic.or.jp/service/>> 参照)。JAPIC WEEKLY NEWSサービス提供を御希望の医療機関・大学の方は、事務局業務・渉外担当 (TEL 0120-181-276) までご連絡ください。

## 【新着資料案内 平成23年7月11日～平成23年7月31日受け入れ】

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。この情報は附属図書館の蔵書検索 (<http://www.libblabo.jp/japic/home32.stm>) の図書新着案内でもご覧頂けます。これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。閲覧をご希望の場合は、JAPIC附属図書館 (TEL 03-5466-1827) までお越し下さい。

〈配列は書名のアルファベット順〉

書名	著編者	出版者	出版年月
第十六改正日本薬局方解説書	日本薬局方解説書編集委員会 編	廣川書店	2011年6月
MIMS New Ethicals JUL-DEC 2011 Issue15	Valerie Hoa et al	UBM Medica (NZ) Ltd.	2011年
世界の薬剤師と薬事制度	寺脇 大 他編	ムイスリ出版	2011年5月
つながる図書館・博物館・文書館 デジタル化時代の知の基盤づくりへ	石川徹也、根本 彰、吉見俊哉 編	東京大学出版会	2011年4月

## 情報提供一覧

### 【平成23年8月1日～8月31日提供】

出版物がお手許に届いていない場合、宛先変更の場合は当センター事務局 業務・渉外担当 (TEL 03-5466-1812) までお知らせ下さい。

情報提供一覧	発行日等	JAPIC作成の医薬品情報データベース	更新日
〈出版物・CD-ROM等〉		〈iyakuSearch〉 Free	<a href="http://database.japic.or.jp/">http://database.japic.or.jp/</a>
1. [JAPIC Pharma Report—海外医薬情報]	8月5日	1. 医薬文献情報	月 1 回
2. 「重篤副作用疾患別対応マニュアル第5集・総合索引付」	8月8日	2. 学会演題情報	月 1 回
3. 「添付文書入手一覧」2011年7月分 (HP定期更新情報掲載)	8月1日	3. 医療用医薬品添付文書情報	毎 週
4. [JAPIC NEWS] No.329 9月号	8月26日	4. 一般用医薬品添付文書情報	月 1 回
〈医薬品安全性情報・感染症情報・速報サービス等〉 (FAX、郵送、電子メール等で提供)		5. 臨床試験情報	随 時
1. [JAPIC Pharma Report海外医薬情報速報] No.794-797 (旧: 医薬関連情報速報FAXサービス)	毎 週	6. 日本の新薬	随 時
2. 「医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC-Qサービス)」	毎 週	7. 学会開催情報	月 2 回
3. [JAPIC-Q Plusサービス]	毎月第一水曜日	8. 医薬品類似名称検索	随 時
4. 「外国政府等の医薬品・医療用具の安全性に 関する措置情報サービス (JAPIC Daily Mail)」No.2484-2506	毎 日	9. 効能効果の対応標準病名	月 1 回
5. JAPIC Weekly News No.314-317	毎週木曜日	〈iyakuSearchPlus〉	<a href="http://database.japic.or.jp/nw/index">http://database.japic.or.jp/nw/index</a>
6. 「Regulations View Web版」No.220-221	8月12日・26日	1. 医薬文献情報プラス	月 1 回
7. 「感染症情報 (JAPIC Daily Mail Plus)」No.402-406	毎週月曜日	2. 学会演題情報プラス	月 1 回
8. [PubMed代行検索サービス]	毎月第一・三水曜日	3. JAPIC Daily Mail DB	毎 日
		4. Regulations View DB (要:ID/PW)	月 2 回
		外部機関から提供しているJAPICデータベース	
		〈JIP e-infoStreamから提供〉	<a href="https://e-infostream.com/">https://e-infostream.com/</a>
		〈JST JDream IIから提供〉	<a href="http://pr.jst.go.jp/jdream2/">http://pr.jst.go.jp/jdream2/</a>

JAPIC

医療用医薬品集2012 <検索用CD-ROM付>



- ◆2011年7月新薬まで収録
- ◆約40年の編集実績による信頼と使いやすさ
- ◆国内流通全医薬品の最新情報に基づき作成
- ◆検索用CD-ROM(非インストール版)付
- ◆便利な「薬剤識別コード一覧」(冊子。別売2,940円 税込)の無料請求葉書付
- ◆類似薬選定のための「薬効別薬剤分類表」を収録
- ◆更新情報メールの無料提供(要登録)

2011年9月発行  
B5判 約3,300頁 / 13,650円(税込)

■検索用(非インストール版) CD-ROM Windows版 とは

- ◆収録内容
- 医療用医薬品集
  - 一般用医薬品集
  - 薬剤識別コード一覧
  - 薬価情報
  - 後発品の全情報
  - 添加物情報
  - 医療用医薬品の最新添付文書画像(PDF)の表示機能付(無料・要インターネット接続。PDFは毎週更新)

定価: 8,000円(税込)  
※インストール版は15,000円(税込)で別途販売しております。

JAPIC

一般用医薬品集2012

- ◆リスク区分(第1類~第3類医薬品)をわかりやすく表記。
- ◆国内流通医薬品をほぼ網羅する約12,000製品を収録。個々の製品について、製造販売・販売会社、組成、添加物、適応、用法を記載しております。
- ◆付録には、リスク区分情報、ブランド名別成分比較表、国内副作用報告の状況、重篤副作用疾患別対応マニュアル等を収録。

2011年9月発行 B5判 約1,600頁 / 9,450円(税込)



財団法人 日本医薬情報センター JAPIC 編集・発行 ☎ 0120-181-276  
丸善出版株式会社 発売 TEL 03-6367-6038

上記書籍の他、電子カルテやオーダリングシステムに搭載可能なJAPIC添付文書関連データベース(添付文書データ及び病名データ)の販売も行っております。データの購入希望もしくはお問い合わせはJAPIC (TEL 0120-181-276) まで。

Garden ガーデン

このコーナーは薬用植物や身近な植物についてのヒトクチメモです。リフレッシュにどうぞ!!

しらねせんきゅう

薬用植物のセンキュウに似たものが日光白根山付近にあったので命名されたのだろう。上信越の高原などにも多いが、かなり低い野原にもある。夏の終わりから秋にかけて他の花が少なくなった頃暗い小川のほとりなどに咲くのでよく目立つ

● 美しいセリ科の花である。(ky)



JAPICホームページより  
<http://www.japic.or.jp/>

HOME サービスの紹介 ガーデン

Topページ右下部の「アイコン」からも閲覧できます。